

令和3年度第1回下田市総合教育会議 会議録

開催日時 : 令和3年8月25日(水)16時00分～17時15分

出席者 :

【委員】

市長	松木 正一郎	教育長	佐々木 文夫
教育委員	田中 とし子	教育委員	渡邊 亮治
教育委員	西堀 政幸	教育委員	天野 美香

【事務局】

学校教育課			
課長	糸賀 浩	参事	土屋 大祐
課長補佐	土屋 仁	子ども育成係長	内田 陽久
学校教育係長	原 隆史	指導主事	檜山 和人
生涯学習課			
課長	平川 博巳	課長補佐	鈴木 芳紀
図書係長	澤地 彩	社会教育係長	金守 俊彦
企画課			
課長	鈴木 浩之	課長補佐	吉田 康敏
主事	佐藤 友里		

1 開会 16:00

2 あいさつ

・市長

全国で新型コロナウイルスの感染が広がり、29の都道府県がまん延防止等重点措置又は緊急事態宣言になっている。下田市も8月20日から9月12日まで緊急事態宣言が適用となる。

2学期が厳しい環境の中で始まることに対して、父兄の皆様の心配は非常に高いものがある。感染防止は十分なのかといったことと、学校という学びの場、子どもたちの成長の場という本来の学校の役割がきちんと確保できるかという心配である。

一方、学校を運営する側も、学校内でクラスターが発生してしまわないだろうか、児童生徒の精神的なダメージの心配がある。そうした様々な課題を整理しながら、学校の運営方針が示される。子どもたちの安全を確保しながら、教育を質的量的に低下しないようにする仕組みについて、議論をお願いしたい。

もう一つの協議事項の、文化振興や社会教育。下田には様々な文化が醸成されている。これをしっかり保存継承して、この町を元気にすることをめざしていくために、意見交換をお願いしたい。

・教育長

コロナ禍における、学校そして地域、教育委員会を含めて、子どもたちが学びの場を失わないような方法で、こういう時期だからこそ、今後、子どもたちが何か目標を持ってできるようなことができると良いと思う。委員の皆様の見解を伺い、今後対応していきたい。

2番目の文化・社会教育についても、コロナ禍の中、いかに文化継承していくか、歴史をもとに、下田市が今後、大いなる発展をする一つの光になればと思う。今できることもあると思

う。皆様からご意見をお願いしたい。

3 協議事項

○コロナ禍における学校運営方針について

- ・事務局（学校教育課参事）より説明。
- ・事務局

8月20日臨時の校長会を開催し、今後の対応について協議をした。配布した書類を見ながら聞いてもらいたい。

まず、市内小中学校長宛の通知で、1番に校長会で決めた方針を始業式後に児童生徒を通じて保護者に配布すること。まず昨日始業した下田中学校で、保護者に配布した。残りの学校では明日配布することになっている。

2番では、今回は特に各家庭の協力が必要であることと、PTAを含めて協力をしてやっていくこと。

3番と4番では、これまでと違い、感染力の強さが心配されるので、普段と体調が少しでも異なる場合、本人はもとより、同居のご家族についても、体調の不調を訴える方がいる時には、自宅で休養して、登校を見合わせることを示している。4番での健康状態の確認を徹底して、できる活動については、進めていくということで、方針を示した。

配布資料の健康観察カードは、去年の臨時休校以降、子どもたちは毎日健康観察・検温をしている。今回から同居の家族の体調の欄を追加した。

学校等における感染の対策チェックリストを、2学期が始まる前に再度職員全員で共有して、その上で進めていくということで、資料を配布した。

1番での保護者宛の通知では、それぞれ地域によって実情が異なるので、行事・活動内容によっては、中止延期もやむを得ない。ただ、できるものは、工夫をしながら教育活動を進めていきたいということを記載している。

続いて、保護者や、地域の方が心配になるようなことを、具体的に記載している。

9月に予定されている運動会は、延期する。中学校の部活動も、緊急事態宣言下では接触が心配されるので、その間は中止と判断した。宿泊を伴う活動は、10月初旬まで検討しながら、中止または延期という判断をした。それ以外の宿泊を伴わない様々な体験活動は、宣言が発令されている間は中止し、その後については、感染状況をみながら体験できるものは進めるということで、共通理解をした。

資料裏面「新型コロナウイルス感染症を拡大させないために」は、もう一度確認の意味で、配布している。今回、ご家庭へのお願いを追加した。学校で変更している部分もある。1点は少しでも症状が見られた場合は、かかりつけ医に連絡して相談をするように。2点目は家庭から学校、また学校から家庭への感染拡大を心配しているの、情報共有をしながら、何かのときには情報を学校へ連絡してほしいということ。あわせて差別偏見の心配もあるので、みんなで気を付けていきましょうということを記載している。

基本的に学びを止めないことを第一に考え、日々の授業は継続をしたい。そのために我慢するところは我慢して、工夫するところは最大限の工夫をするということが1点目のポイントである。もう1点は家庭から学校へ、学校から家庭への感染の広がりが少しでもなくなるように、ご家族の方の体調にも気を付けながら情報共有して、一丸となって取り組んでいくということを考えている。様々なご意見があると思うので、安全を守りつつ、教育の質を低下させない案等をお願いしたい。

【質疑、意見等】

- ・市長

沼津市等では2学期のスタート時期を遅らせたが、下田は遅らせていない。それについて

説明をお願いしたい。

・事務局

夏休み中も感染の情報を収集しており、全ての情報が集まっているかわからないが、沼津市ほどの子どもたちの感染の拡大状況と判断していない。その中で、全て止めてしまえばリスクは少なくなるが、教育はできるところは進めたいという意味から、現状では、活動を制限しながら学校生活を開始することが適切だと考えている。

・市長

つまり生徒児童の最近の感染の程度が沼津市とは違うので、始業を遅らせなくてもいいということか。

・事務局

その通りである。

・田中委員

この状況で子どもの安全確保と、教育の質も高めるのは、難しいことだと思う。現状から、最悪の事態を考えて学校運営をしていかなければいけない。

職場から家庭へ、家庭から子どもへ、そのまた逆の感染拡大をどうにかするには、ワクチンの接種が一番大事だと考えている。ワクチン接種が順調に進んでいると言っていたが、まだ働き手の保護者まで届いてない。これが子どもとの関係で危険だろう。

また、健康観察カードをしっかりとやるということは、学校は、今までの業務に加え、子どもたちの命を守るという業務が増えている。先生方のストレスも相当のものだと考える。前回の緊急事態宣言の時には、スクールサポートスタッフを国と県に出してもらい、学校としては本業に力を入れることができたという声を聞いている。まだ国や県での働きかけがないようなので、市の方から学校へサポートをお願いしたい。

・市長

ワクチンの接種について、65歳以上の高齢者は、7月末で基本的に終了し、接種率が90%近くになった。65歳以下の接種は、第一優先として基礎疾患をお持ちの方、第二優先は教育現場で働いている方で、現在、一般の方へ接種を行っている。首都圏では若者の接種が進んでいないと言われているが、下田市の65歳以下は、現在7割程の予約率になっている。これを進め、下田市全体で8割以上の摂取を目指しており、もう少しで達成する。

・事務局

スクールサポートスタッフは、現在各校に1名ずつ配置されている。

去年は、人員や時間数を追加して対応した。今年は現時点で国や県からの連絡はないので、学校で手分けして放課後に消毒作業を行っているのが実情である。

・田中委員

一人では少ないですね。

・事務局

現場は厳しいと思う。

・田中委員

そうですね。

・教育長

1回目の緊急事態宣言の時は、かなり国も動いてくれた。現在、2回目の緊急事態宣言の中で、そういう動きが全く見えてこない。今回は、1回目の時よりも感染力が強いデルタ株などが広がっている中で、これは国・県の事業であるが、そういうところにも目を向けてもらうよう要望を出し続けていきたい。予算の関係等、学校現場の声を聞きながら、市長部局へお願いをしながら進めていく。

・田中委員

是非お願いしたい。

・西堀委員

今のような制限がかかっている中、修学旅行や運動会も延期や中止で子どもたちの行動範囲が狭くなる。田中委員の意見のように、ワクチン接種を希望する若い人たちがまだ100%接種していない現状は、ワクチンを早く接種しないと、子どもだけでなく、地域も父兄も行動範囲が狭くなる。ワクチンを早く打ち、子どもたちの行動範囲がコロナ前に近い生活をさせてあげたい。

・渡邊委員

運動会や部活等の学校活動が中止や延期になるのは、緊急事態宣言発令中は仕方がない。これから宣言が開けて、状況を見ながらできることは、なるべく子どもたちにストレスがかからないようにやってもらいたい。

・天野委員

受験生と中学生の保護者として、今年の緊急事態宣言から1年半過ごしてきた。先ほど話があった健康観察カードに、毎朝体温と体調を記載し、印鑑を押して持たせている。先生方がこれを確認しているが、本来の業務以外の仕事であり、先生方の努力によるものである。子どもたちのことを一番考えてくださっているのは先生方である。尽力いただいた中で、1年半クラスターが出ていないのは、それだけ守られていたということではないか。

一方、今回のように運動会は延期、部活動も夏休み中は中止。子どもたちはかなり我慢をしている。ただ、その中で状況を判断して行動する子が増えていると感じる。この一年半の中で学んできたこともあると思う。ワクチンに関しては12歳以下の子は接種ができないので、大人が子どもの見本になるように考えて行動しながら守ることが大事だと思う。

・市長

学校の機能を全部そぎ落とされて我慢しなくてはいけない状況を、何とかしてあげたいという思いは、皆共通している。一方で、9月12日での宣言解除は厳しく、延期する可能性が高いと考えている。我々は、持続可能な教育を考えていかななくてはいけない。今回、延期や中止した様々なことを、代替行為として何か考えて、例えばAIやVR等のITを駆使して、リモートでも行えるようにできないだろうか。子どもたちの情操教育的なことを、なんらかの形で提供することを考えていかないと、今の子どもたちがコロナの時代で、そぎ落とされた教育しか受けられなかったとなる。個人的にクリエイティブな発想で、新しい別の教育の提供ができないかを感じている。コロナが長期化することを覚悟して、私達は教育を設計しなくてはならない。このことについて事務局はどのように考えるか。

・事務局（学校教育課長）

これまでの話のとおり、子どもたちも我慢をされていてストレスがたまっている。というのはこの現状で、勉強の方だけをすすめている。学校活動は本来勉強以外の活動も重要である。小中学校というのは子どもたちが集って行くことが、特に重要であるといわれている。修学旅行が中止になったところについては、バーチャル修学旅行などを検討していきたい。

・田中委員

市長の「授業をITで」というのは、タブレットが子どもたちに配られており、小学校高学年であれば自分たちでできるだろうが、低学年だと保護者が付き添わなければならない。また、先生方の技術力はどうか。

・事務局（学校教育課参事）

難しいところで、今の段階できることを並行して行っている。

・田中委員

これから先生の技術力が向上していくと思うが、受ける子どもたちの体制が、この状況の中で整うかどうか。一斉にここを目指すというのは難しいことだと思う。

・市長

下田モデルカードという毎日朝晩の体温や体調、普段付き合っていない人と何人あったかを記録する取り組みを行っている。これは動態観測といい、挙動を記録して、いつの時点で変化があったかが自分でわかる。こういったことを子どもたちに普及させてはどうか。今のカードは漢字で書かれているので、大人向けだが、子ども向けの表記にしたり、観光施設等の割引特典を、子ども用の特典をつけたら面白いし、やる気になると思う。

・田中委員

市長へ質問。市内のコロナの感染状況で10代が増えてきた。これは市内で発生したクラスターからのつながりではないか。

・市長

厳密な情報はわからないが、クラスターに関しては、ほぼ収束した。最近の感染は、出張等で親御さんから感染したものと思われる。ただし確実ではない。クラスター関連の場合は、県からクラスター関連と発表される。

・田中委員

わかりました。

・事務局（企画課長）

市役所では毎週コロナの情報共有を行う会議を行っている。今後も意見等があれば教育委員会までお願いしたい。

・教育長

健康観察カードは、学校と教育委員会と協議して開始したものである。体調等の記録は、すでに子どもたちもやっているのだから、これを下田モデルカードに変えることは大変ではないと思う。小中学生に下田はこの下田モデルを前面に取り組むということで意識を持ってもらうためには、良いと思う。このカードが作れるか、予算の関係もある。また、その際には内

容を子ども向けに検討をしていただきたい。

・事務局（企画課長）

下田モデルカードは防災安全課が担当しているので、今後担当課と協議をお願いしたい。

・事務局（学校教育課長）

すでに、防災安全課からこのようなことをやっていきたいと話があったので、進めていきたい。

○下田市の文化振興・社会教育について

・事務局（生涯学習課長）より説明。

・事務局

生涯学習課では、これまで公民館講座や様々な教室やグランドゴルフ等のスポーツ講座を開催し、今後、活動をしていただくきっかけづくりを主に実施してきた。

市長より文化を活かしたまちづくりを考えたいということで、懇話会の開催をしてはどうかと提案があり、昨年11月に様々な分野で活動されている30名程度に集まっていた。どのような活動を行っているか、そしてこれからどのようにやっていきたいか又はどんなことを行っていったらいいかという意見をいただいた。高齢化により、次の世代の人材確保が課題になっていたり、だんだん規模や活動内容が縮小傾向にあるとか、活動は頑張っているが他の団体との繋がりが少ないので交流の場を増やしたら良いのではないかといった意見や、まだスポットが当たってないところもあるので、特に人物の掘り起こしをしていく必要もあるのではないかといった様々な意見があった。

現在、様々な活動がバラバラに行われているのを、ある程度まとめてまちづくりに活かさないか。下田らしい文化を根付かせていくために、理念・概念を整理した中で、将来的に文化を活かしたまちがどのようになっていくべきかという方向性を整理していきたいと考えている。今年度は、市内の各団体にアンケートで、具体的な現状や課題の把握をするために準備している。

イメージ的には、各団体が類似したグループで分かれて、事業を推進していければいいと思っている。まずはその全体的なその方向性を、考えていきたい。これまで文化でのまちづくりという視点ではあまり考えてこなかった。まちづくりの視点で文化振興や社会教育というところを取り組むべきだといった意見があったので、委員の皆様にも、具体的な取り組みのアイデアやご意見を頂戴したい。

【質疑・意見等】

・天野委員

教育委員会の連続講座で、「南豆の歴史を後世に」という講座がある。内容的には難しいかもしれないが、中学生等に向けて、コロナが続く場合はオンラインで流すなど、まず文化を知ることが大事であり、将来に繋がると思う。

あと、市長の下田の文化に対する思いを教えてください。

・市長

私は、以前県庁で、景観まちづくりの課長をやっていた。その時に学識の先生から、景観というのは、先人たちから私達へのプレゼントで、そして私達は次の時代にまたバトンを渡す。いろいろな人の汗が染みだ、その結果が今の風景、景観であると言われた。

そういったものをどう保存して継承していくのか。景観だけでなく文化全体に言えること

だが、文化・文化財の管理を、個人に任せっきりになっているところが多く、行政としてそこに応援をしなくて良いだろうかと思っている。公共的な意味合いもあり、地域振興に役立ったり、教育的な効果もある。行政と個人と力を合わせて、又は個人と個人を繋げることで、より輝きが増すのではないか。そのために私達は何をすべきか考え、政策としてひとつずつ実施していく。例えば澤村邸は寄付をいただいたが、寄付でなくて、個人の家のみで、何らかのお手伝いをさせていただき、所有者の方にもご協力をいただく。そうやって、社会教育的に文化財を、地域の中で活用できたら素晴らしい。安直楼も、今は使用されておらず、外側に看板があるだけで良いのだろうか。日本の建物は木造だから使わないと腐食が進んでしまう。今を生きる世代として次の世代に繋げる責務があると考えている。文化振興とはどういったことか、皆様のご意見を頂戴したい。

・田中委員

市長の話の中で、文化や歴史を後世に伝えていくことが大事な責務だと理解した。

しかし、教育委員会は、これまでこういった観点での協議をしてこなかったもので、どう意見すべきか考えてきたが、今の市長の意見を教育委員会として取り入れて、それを深めていかなければならないということ、一緒に考えていく必要がある。

・西堀委員

漠然とした文化の振興だと意見するのが難しい。

・市長

漠然とした表現はわかりづらいので、噛み砕いた言い方で事務局から説明をお願いしたい。

【補足説明】

・生涯学習課長

例えば、歴史的な活動をされている方の場合、安直楼を活用してどういったことができるかアイデアをもらったり、吉田松陰の寓居処を舞台に、歴史を題材にした展示会などの具体的な取り組みで、協力いただいて、振興していければ良いとイメージしている。

・渡邊委員

下田には見せる歴史が沢山ある。しかし、息子も含め子どもたちが下田を知らない。いくつかピックアップして子どもたちにも伝え、覚えてもらうことが必要だと思う。

・天野委員

下田の歴史は残っているものが多い。しかし、子どもたちがそういった歴史・文化に触れる機会が少ない。特にお祭りもコロナの影響で中止になっている。学校の先生方も授業の中で取り組んでいるが、歴史を後世に伝えるという機会が必要ではないかと思う。

・教育長

歴史は文化とイコールになっていて、この歴史をどうやって後世につないでいくかが、一つの私達の役目だと考えている。

一方で、現在それぞれサークルでダンスや音楽等いろんな活動をしている。今までの文化の継承と同時に、若い人たちがやっているものの中から、下田として取り組めるもので、これから新たな文化を作り出すといったことも、面白いのではないか。文化として、今は成立していないが5年後 10 年後に下田の特色を活かした文化ができたなら良いのではないか。例えば中学でサーフィン部ができる。それが小学校でもクラブ活動みたいなものができて、そ

して高校も同好会のようなものができたら下田市としてサーフィンという文化が生まれていく。こういったことも下田の魅力になるのではないかと思う。

・市長

教育の魅力化について、元市長の楠山氏が活動している。子どもたちが、この町を出ていってしまうことに憂いている人がいて、教育の魅力化が必要ではないかといわれている。教育の魅力化とは進学率を上げることやインターハイでいい結果を残すことではなく、地域のことをしっかりと学び、地域の良さを知っている子になる。そういったことを大人も一緒にやることだと思う。大人が仕方なく暮らしているのではなく、大人も自分のまちをわかって、暮らしていることが大事である。

しかも下田は、もともと江戸時代の頃から、風待ち港としてにぎわった歴史がある。そして、歴史を偲ばれるような建物が沢山残っている。例えばペリーロードや小川浴いのまちなみなどを、上手に活かすことで、精神面の上でもプラスになるし、観光という経済的な効果も持っている。まだ磨くことができると思う。

例えば、坂下のまちを 30 年程前に「ペリーロード」と名前をつけた。このように言葉を付けただけでそこに意味が出てくる。

子どもの頃、実家のなまこ壁に泊まり、なぜ倉庫に寝ているのかと思った。それは無理解であり、子どもたちが歴史の意味がわかることが大事ではないかと思う。

・田中委員

当然過去の歴史を伝えることも大切であるが、教育長の話のようにこれから歴史を作り新たな文化にするというのも良いと思う。例えば、子どもたちが町の中に絵をかいて、自分たちがやったという満足感を持ちながら大人になっていくという考え方もあるのではないか。

・西堀委員

昔のさもない日常のことが懐かしく思える。教育長や田中委員の意見のように、子どもや若い人たちの新たな文化をというのも一理ある。一方で、下田にはいろいろな歴史がある。ただ漠然としていて、これだというものがない。

市長が先頭にたって下田の文化はこれをやっていこうという形で進めてもらいたい。

・市長

富士山は、世界遺産登録されている。世界遺産の中での分類が世界文化遺産である。これは富士山がもつ文化的な意味がユネスコで認められたものである。当初は、世界自然遺産のつもりでいたが、自然の面では開発が進み、近くで工場やゴルフ場の建設がされている。

一方で、富士山があったことで、詠まれた短歌や生まれた信仰や、建物、まちなみ等いろいろなものがある。それが富士山の存在からきていて、影響が人々の暮らしに大きいと判断された。例えば、田子の浦や清水の三保は、そこから富士山が見えて詠まれた歌があるため、世界後世遺産、世界遺産の一部となっている。こういった広がりのようなものも良いと思う。

下田はある意味、世界文化遺産と言ってもいいのではないか。ただ、登録すると荒れてしまう可能性があるのも、登録はしない方が良いと思っている。これまでに登録されて、一気に観光化してしまい、文化が破壊されたということがあった。程よく経済に還元しながら、その文化を守っていくことが大事である。保存して継承するには、どうしてもお金がかかるので、経済的なメカニズムも埋め込む必要がある。お金を稼げるような活用をする。皆様からのご意見を頂戴して、今後の政策に反映していきたいと思う。

・教育長

今回いただいた意見がこれからのヒントになる。また、教育委員会だけで行っていくのは困難であるので、横断的に進めていきたい。

・事務局（企画課長）

文化は幅が広い言葉になる。中心は生涯学習課で担当しているが、市役所全体の課題として取り組んでいきたい。

今後、教育委員会、あるいは総合教育委員会で経過報告をさせていただきたい。

その他に、文化に関して意見ありませんか。

特になし

4 その他

・事務局（企画課長）

資料の配布はないが、これまで黒船祭をはじめとした国際交流事業を行ってきた。ただ、真の国際交流ができていたかということで、今年、市政施行50周年を迎え、国際化・国際交流についてしっかり取り組もうと準備を進めている。教育委員会と企画課と連携して、国際交流というグローバルの視点と、地域を知るというローカルの視点を含めた人材育成を進めていきたい。

あわせて下田高校の校長先生が変わられて、地域との連携を進めていきたいと話をいただいた。下田市でも来年中学が一校化するので、中高連携など教育の面を含めて、国際化を進めていきたいと考えている。

市内の連携の他に下田高校とも話をまとめているところである。骨格ができたなら、この会議で報告を予定している。

5 閉会 17:15